

## 令和3年度 看護職員の負担軽減及び処遇の改善計画と結果

テーマ	担当者	目標	計画	経過及び結果	課題
夜勤の負担軽減	看護 部長室  人事課  各職場	1. 8 日 夜 勤 率 50%以上になるよう看護師確保、定着に努める  2. 看護補助者の夜勤導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤実態調査による現状把握</li> <li>・夜勤可能な人材の育成</li> <li>・育休中職員の定期的面談</li> <li>・看護補助者の早出、遅出、準夜、深夜業務を導入し、夜間の看護師の負担軽減を図る。</li> <li>・看護補助者の人員確保と定着</li> <li>・看護補助者のスキルアップをはかる(OJT OFF-JT)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8日夜勤率 40%台</li> <li>・令和3年度採用職員 40名（中途含む） 新人の早期夜勤導入をめざし教育しているが遅れている 夜勤未実施 10名</li> <li>・深夜業制限 9名</li> <li>・産休・育休中者 28名（3月31日）</li> <li>・退職者：看護師 28名（転勤 4名）新人 0名 介護福祉士・看護補助者 4名（病欠中 2名）</li> <li>・看護補助者の夜勤体制：遅出 3部署 夜勤または遅出 4部署 未導入部署（西 7 南 7） 夜勤実施者数 26名 全部署の夜勤導入に至っていない。また、4人夜勤（看護師 3 補助者 1）にできない場合は看護師が遅出を行っている。</li> <li>・研修状況：看護補助者 6回 介護福祉士 6回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人職員の教育</li> <li>・夜勤可能な看護補助者を確保と育成をし、夜勤導入部署を増やす</li> </ul>
業務分担の推進	看護 部長室  各職場	1. 看護職間のタスクシフト・タスクシェアリングをはかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師・介護福祉士・看護補助者の業務範囲の明確化</li> <li>・タスクシフト・タスクシェアリングでできる業務を明らかにする</li> <li>・業務の手順・マニュアルの見直しと整備</li> <li>・介護福祉士・看護補助者研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活援助の中で、清潔の援助に関しては、受け持ち看護師と情報共有し、介護福祉士が中心となりケア計画を立て実施した。</li> <li>・ナースコール対応、おむつ交換を行い、看護師が記録に専念できる時間を確保した。</li> <li>・手順・マニュアルの見直しは一部しかできなかった。</li> <li>・看護補助者の役割、業務範囲についての研修を行なった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活支援業務の拡大</li> </ul>

<p>時間外勤務の削減</p>	<p>各職場 看護 部長室</p>	<p>1. 各職場で目標設定する</p> <p>2. 各勤務帯での業務改善を行なう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各職場の目標を看護部で共有する（方針・中間・総括）</li> <li>・看護記録の時間確保・簡略化 ラウンド時ノート PC を持参する テンプレートの活用 重複記録をなくす(記録委員会課題)</li> <li>・ノー残業デーの実施</li> <li>・クリニカルパスの作成と活用</li> <li>・入院センターの機能強化</li> <li>・会議の短縮</li> <li>・看護部長室、日当直師長がマネジメントし、応援機能の充実をはかる 緊急入院 検査 入浴介助 他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署の目標と経過・結果について師長会議で共有した。</li> <li>・3月28日 看護部集会で各部署の取り組みについて共有し、出席できない職員は「看護部のまとめ」を確認した。</li> <li>・入退院センターの介入により、多職種との連携、患者情報の提供を行い入退院支援につなげた。プロフィール聴取 1195 人（昨年度 1118 人）</li> <li>・緊急入院時は外来でプロフィール聴取を行ない、病棟に申し送り、病棟業務の負担軽減となった。</li> <li>・感染状況が落ち着かず、また、常時満床状態の中、感染対策をしながらの外来対応、予定・緊急入院の受け入れにより業務が逼迫し、時間外勤務となった。</li> <li>・看護補助者の夜勤導入により夜勤の時間外勤務が削減した。</li> <li>・記録委員会の課題として重複記録の監査を 2 回実施。各部署にフィードバックし重複記録は減少したが、記録時間の短縮には至らなかった。</li> <li>・新規パス 8 件新規稼働 3 件 修正 28 件 (クリニカルパス委員会で管理)</li> <li>・書面やメールを活用し会議の回数・時間の削減を図った。毎月開催していた病棟会議を年 2～3 回とした。</li> <li>・毎朝の看護部ミーティングでベッド状況、スタッフ数の情報を集約し、部署間での応援体制をとることが定着した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録委員会を中心に看護記録の簡略化をはかる</li> </ul>
-----------------	---------------------------	---	---	--	--